

【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

豊かな未来のために

国東市立安岐中学校

三年 諸富 紗菜

最近の日本では、自然災害が頻繁に起きている。その多くで危険に見舞われた人は数えきれないほどだ。

私はテレビでよくニュースを見る。災害の情報が流れたとき、救助の場面をたびたび見かける。ボランティアもいるが大体は自衛隊だ。私はそういう場に自衛隊がいることは「あたりまえ」だと思っていた。だが税の授業を通して私たちの税金で行われていたことが分かった。言い方を変えれば税金がなければ助かる命も助からなかったということだ。

「税はどうしてあるのだろうか。」と前々から思っていた。税があっても何も変わらないのに無駄にとるのはなぜか。五%から八%、八%から十%と上がるにつれて批判も増えた。怒りを買ってしまうくらいならなくせばいいとさえも思った。でも今思ったら心から恥ずかしかった。税があることで私たちはより豊かに暮らすことができ、誰かを助けることができる。たった少しの寄付でそこに居なくても人助けができる。

「税を納めることは国民の義務である。」とこれまでずっと教えられてきた。だからこそ否定的なイメージがついてしまったのかもしれない。でもこれからの日本がもっと豊かになると考えたとき、そのイメージはきつと変わるはずだ。なぜなら今までの積み重ねで人々から感謝されたことはたくさんあるのだから。私は「義務」を否定し続けるよりも「誇り」と思い協力する方が何倍も良いと思う。あたりまえがあたりまえにならない世界は考えられない。それは全員が誰かのために誇りを持って納めてくれたからだ。

以前の私なら、ひとごとのように関心を持たなかっただろう。身近に税が使われていると感じなかった。でも今は税にとっても感謝している。私は人を助けることが好きだ。それに将来、そういう仕事につけたらいいなと思っている。だから税があることで私でも社会のために貢献できていることはうれしい。そしてそれを誇りに思う。

私はまだ学生で何もできない。でもこれからはもっとできることがふえていく。その一つとして税金を納めていこうと思う。それで困っている人や助けを求めている人がいたら使ってほしい。私もはやく社会の一員となれるようがんばりたい。

これからの豊かな未来をつくるためには、一人一人が意欲的に税と向き合い納めていくことでこの先産まれてくる小さな命の手助けになり、老後の思いやりにもつながる。幅広い年代に向けて平和で安全な輪をつなげることがこれからの私たちには欠かすことができない大切なことだと私は考える。